

免疫便潜血検査(FIT)は、本特集にも述べられているように、1980年代に斎藤 博らにより開発され、1992年には世界に先駆けて日本がはじめて対策型大腸がん検診に導入した。2000年以降には国際的にも大腸がん検診のスクリーニング法として広く使用され、大腸癌死亡率減少に大きく貢献してきた。そのFITについては、松田(一)や堀田らはFITのカットオフ値設定の再検討、斎藤は、FITのスクリーン感度とプログラム感度の正しい理解の必要性を訴え、そして、関口、小林、松田(尚)らは大腸癌死亡率抑制を目指すうえで優れた検診法であるとしている。しかしながら、一般臨床でのFITの取り扱い方には未だ問題があり、若村が指摘しているようにFIT陽性でありながら大腸内視鏡検査を勧めず、FITの再検査での陰性結果から経過観察とするような誤った診療があること、一方、FIT陰性の場合の注意点として、関口らは1回のFITで大腸癌は問題なしとして終えるのではなく、FITによる逐年検診から見逃しのリスクを減らすことの重要性を述べている。

そこで、FIT陰性癌の特徴像について、本号のテーマとしてまとめてみたところ従来の報告のとおり、腫瘍径は小さく、表面型、早期癌、右半結腸(とくに盲腸)に多いことが示された。

本号では、大腸がん検診の在り方についても貴重な意見が述べられている。対策型大腸がん検診は、FITが主体であったが、今後は大腸内視鏡検診も加わることが見込まれている。しかしながら全対象に対し無差別に大腸内視鏡検診を行うことには、無視できない不利益や内視鏡検査のキャパシティの問題から非効率的であるとしている。効率的な大腸がん検診を考えた場合、小林らは大腸腫瘍の発生リスクを推定するAPCSスコアを用いて、FIT陰性者のなかからハイリスクを抽出し内視鏡検査を行うという、FITとAPCSスコア、大腸内視鏡検査、これらの組み合わせから、効率的な大腸がん検診プログラムを推奨している。

今回、FIT陰性癌を特集として取り上げたが、FIT陰性癌の特徴像はもちろんのこと、FITを開発した歴史やその取り扱い方、効率よい大腸がん検診への考え方などを学べる一冊になったと思う。本号が、FIT陰性の対象群をも考慮に入れた新たな大腸がん検診プログラム作成の一助になることを期待したい。

藤井 隆広
(藤井隆広クリニック)

INTESTINE

Vol.23 No.5

©2019年9月20日発行

定価(本体3,200円+税)

●年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

・Published by Nihon Medical Center, Inc.

© 2019, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

編集 『INTESTINE』編集委員会

発行人 増永 和也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64(協和ビル)

営業直通電話(03)3291-3901(代)FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代)FAX(03)3291-3377

e-mail intestine@nmckk.co.jp

印刷所 シナノ印刷株式会社

広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 電話(03)3814-8541